

		チェック項目	はい	どちらとも いいない	いいえ	改善目標・工夫している点等
環境・ 体制整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切であるか	○			・1日10名の定員であるが、1コマに5名程度の利用となるので、活動場所として十分なスペースを確保できている。
	②	職員の配置数は適切であるか		○		・1対1での個別療育ができるように職員を配置している。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の配慮が適切になされているか	○			・入口とトイレの入口をスロープにして、車椅子でも利用できるように配慮している。 ・現在は、スロープを必要とする利用者や保護者はいないが、必要な場合は見学时や契約時に案内する。 ・ドアノブに滑り止めのゴムテープを取り付け、低学年児童にも無理なく開閉できるようになっている。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参加しているか	○			・目標の共有と振り返りを随時行い、職員間で改善の方向性を共通認識して業務遂行している。 ・今後さらに、気づいたことは、すぐに共有できる風通しのよい職場となるように、職員間でのコミュニケーションを促進する。 ・管理者が職員との定期的な面談を行い、フィードバックを適切に行う。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアンケート調査を実施して保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげているか	○			・毎年1月に保護者アンケート調査を実施する。 ・保護者アンケートの結果を集計・集約し、業務改善に反映させている。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報やホームページ等で公開しているか	○			・毎年1月から2月にかけて保護者アンケート及び自己評価を行う。 ・ホームページでの公開及び事業所内への掲示を行っているので、今後も継続して行う。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか			○	・現在、外部評価は行っていない。 ・今後検討していく。
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保しているか	○			・内部研修は、担当者を中心に全員で行っているが、全員が自分事として捉え、行動や意識の変容につながる研修となるような内容の検討をしていく。 ・職員の経験年数や能力に応じて必要な研修が受けられるように受講を勧め、受講しやすいような体制を整えている。また、受講後は全員に還元できるよう報告をしている。 ・研修記録を作成し、いつでも見返すことができるようにしている。
適切な支援	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画（個別の支援計画）を作成しているか	○			・相談支援事業所が作成した「放課後等デイサービス利用計画書」や連携内容、保護者や本人との面談や行動や活動の様子、保護者から情報提供してもらった各種検査結果等を「放課後等デイサービス計画」に反映させている。 ・日々の療育を通しての小さな変化や気づきを職員間で共有し、「個別の支援計画」の作成・見直しをしている。 ・今後も引き続き、子どもや保護者の意向を十分に踏まえた「放課後等デイサービス計画（個別の支援計画）」を作成していく。

の提供	⑩	子どもの適応行動の状況を測るために、標準化されたアセスメントツールを使用しているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・アセスメントシートを使用して、情報把握、ニーズの確認、情報の整理を行っている。 ・より正確でスムーズな情報把握のために、アセスメントの項目の見直しを図る。
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の活動プログラムは個別に作成するため、その日に担当する職員が立案している。 ・日々成果と課題を職員間で共有し、今後の支援の方針を確認し、それに基づいて個別の活動プログラムを立案している。
	⑫	活動プログラムが固定化しないように工夫しているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・一日の活動プログラムはだいたいの流れや時間配分が固定化されているが、内容は固定化しないように前回とは違う活動を提案している。 ・個に応じた新たなプログラムの開発を推進していく。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ細やかに設定して支援しているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・休日は開所していない。 ・長期休暇には利用時間の変更や、利用者や保護者の希望により特設の課題を設定することもある。 ・長期休暇中の療育の在り方について検討していく。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組合わせて放課後等デイサービス計画を作成しているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・EISUみらい塾では個別活動による行き届いた支援、利用者の満足度、自己肯定感の向上に重きを置いている。 ・利用者の様子を見ながら小集団活動を取り入れているが、その際も担当している利用者が他の利用者との関わりを通して有益な体験ができるように職員一人一人が配慮している。 ・集団活動は年に数回行う特設行事の際に行っている。できるだけ多くの利用者が参加できるように呼びかけをする。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打ち合わせをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認しているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・常勤職員は打ち合わせを行っている。 ・非常勤職員には掲示板や療育計画表で書面にて知らせるとともに、常勤職員から口頭でも詳細に説明をするようにしている。
	⑯	支援終了時には職員間で、必ず打ち合わせをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気づいた点等を共有しているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・支援終了時には打ち合わせの時間が十分に取れないため、翌日に振り返り、成果と課題を共有している。 ・ただし、即時対応が必要なことについてはその都度、管理者に報告し指示を仰いでいる。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・ケース記録票を作成している。 ・ケース記録は項目を立て、必要事項の書き洩らしがないように、また、記入例を示し、質の担保ができるように工夫している。 ・記入内容が不十分だと思われる場合は、様子を聞き取るとともに、記入の仕方について個別に指導している。 ・今年度、常に目標や利用者のニーズを意識した支援ができるように、「個別の支援計画」を基にした「支援シート」を作成した。十分活用できていないので今後活用を図っていく。 ・ケース記録があることで、長期的な支援の検証・改善が可能となっている。
	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断しているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の振り返りを行い、個々の課題や目標を微調整しながら支援を行っている。 ・年2回モニタリング会議を行い、「個別の支援計画」の見直しを行っている。
	⑲	ガイドライン総則の基本活動を複数組み合わせさせて支援を行っているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・「自立支援と日常生活充実のための活動」「余暇の提供」を軸に「創作活動」や「地域交流の機会の提供」を取り入れている。 ・「地域交流の機会」はあまり多くないので今後導入を検討していく。

関係機関や保護者との連携	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画しているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・常勤職員はどの子の状況も把握できるよう日頃から情報共有を行っている。 ・担当者会議には児童発達支援管理責任者が参画することが多いが、場合によっては、その子どもに直接関わることも多い職員が参画することもある。 	
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、子供の下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・学校との情報共有は保護者を通じて下校時刻の確認等を行っているが、緊急を要する場合は直接学校と連絡調整を行う場合もある。 ・特に学校との情報共有を必要とする子どもについては連携している。 	
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合は、子どもの主治医等と連絡体制を整えているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、医療的ケアが必要な子どもの利用はないが、受け入れる場合には子どもの主治医との連絡体制を整える。 	
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・児童発達支援事業所から放課後等デイサービスに切り替わる際の連携をより一層充実させる。 ・保育所や幼稚園、認定こども園との連携はできていない。 	
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所から障害福祉サービス事業所へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点ではまだ障害福祉サービス事業所へ移行する利用者はない。 ・利用者が移行する場合には連携を行い、支援内容等の情報が提供できるようにケース記録やポートフォリオを蓄積している。 	
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けているか		○	<ul style="list-style-type: none"> ・専門機関との連携は行っているが、助言や研修を受けるまでには至っていない。 ・今後、助言を仰いだり研修が受けられるように依頼したりする。 	
	㉖	EISUみらい塾以外の人と交流する機会があるか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・今年度高校生によるボランティアを受け入れ、一緒に活動をする機会を持つことができた。 ・今年度、希望者が隣接する並木学院福山高等学校の文化祭に参加する機会を設けた。 	
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか			○	<ul style="list-style-type: none"> ・令和5年度は「福山市障がい者総合支援協議会」の開催する研修会への参加はできていない。 ・今後、参加できるように計画をしていく。また協議会が発行する資料等の活用を図る。
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者送迎を基本としているので、主に療育終了後に内容や子どもの様子を伝えている。 ・送迎時の連携が十分できない家庭について電話連絡をしているが、よりよい連携の方法を考えていく。 	
㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対してペアレント・トレーニング等の支援を行っているか			○	<ul style="list-style-type: none"> ・現在、保護者に対して、取り立てて行っている支援はない。今後、ペアレント・トレーニングを取り入れた保護者支援を検討していく。 	
保護者への説明書	㉚	運営規定、支援の内容、保護者利用負担等について丁寧な説明を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・契約時に「重要事項説明書」をお渡ししたり、支援の内容についての資料を提示したりして説明している。 ・令和5年度は支援の内容についてより分かりやすく掲載した「利用案内」を作成した。 ・アンケートで㉗の項目が「はい」以外の方には個別に再度説明を行う。（5家庭） 	
	㉛	保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に対応し、必要な助言や支援を行っているか	○		<ul style="list-style-type: none"> ・保護者に対する面談や相談対応を、希望に応じて時間設定をして行っている。 ・面談や相談は随時行っていることを「利用案内」に明 	

責任等	②	に適切に心し、必要な場合こ又返を1つしているか	○			記している。
	③	父母の会の活動を支援したり、保護者同士が交流できる機会を設けたりする等により、保護者同士の連携を支援しているか	○			・保護者主催の父母の会は作られていない。 ・令和5年度、事業所主催の保護者会を2回開催した。保護者同士の交流ができる時間も設けている。 ・来年度、保護者主体の会に移行できるように試みる。
	③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか	○			・苦情受付窓口を設置している。 ・ポスター掲示をし、周知を図っている。 ・要望や苦情については、対応（改善できること、できないことの報告）を確実に言い、全体に関わることにについては周知を図っている。
	④	定期的におたよりやホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか	○			・必要に応じてお便りを配付している。 ・活動の様子等はHPにて発信し、「ホームページ更新情報」を事業所内に掲示している。
	⑤	個人情報に十分注意しているか	○			・個人情報の記載された書類は鍵のかかる書庫に保管し、不要になった書類等は確実にシュレッダーで細断して破棄している。 ・子どもの写真や作品を、HPやお便り、事業所内への掲示等を行う場合は保護者の同意を得られたものに限り掲載している。
	⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか	○			・難聴のある利用者には、特にはっきりとゆっくり話す、視覚情報を併用するなどしている。同様に、どの利用者にも分かりやすい配慮をしている。
	⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っているか			○	・今のところ地域とのつながりはできていない。 ・今後、つながりができるように地域の学校や交流館を使つての行事を検討し、計画していく。
非常時等の対応	⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知しているか	○			・各種対応について運営規定に定めている。 ・各種マニュアルを事業所内に設置し、誰でも閲覧できるようにしている。
	⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練を行っているか	○			・利用者の避難訓練は6月と11月に個別に行つた。（避難訓練の必要性、避難の仕方、第一避難場所までの避難）
	⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか	○			・虐待防止マニュアルを策定している。 ・虐待防止チェックシートを用いて、月初めに全員でチェックしている。 ・令和5年度は1名外部研修に参加し、全職員に還元する予定である。
	⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか	○			・「身体拘束を行う場合」の組織的な決定はできている。 ・令和6年度は子どもや保護者に説明し了解を得られるようにしていく。
	⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか	○			・契約時にアレルギーがあるかどうかを確認し、必要な配慮を行っている。 ・現在、医師の指示書のある利用者はいないが、医師の指示書がある場合はコピーを全職員が分かる場所に保管し対応する。

④	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有しているか	○		・ヒヤリハットの事例は日常的に必ず報告し共有し、事例集を作成している。 ・新たな事例が加わった時には、全員にわかるように掲示して周知を図っている。
---	----------------------------	---	--	--